

ニュースから考える

数か月続いたコロナとの闘いが緊急事態宣言の解除で一息つける状態となりました。



世界を見渡すと先進国から後進国へ感染拡大が続き 5 月末で 37 万人もの死者となっています。感染が拡大した国とそうでない国の違いについて TV やネット等で BCG が関係するとか・・・発酵食品を食べる習慣がどうか・・・諸説が流されています。

しかし、ここでは学術的な視点で考えて見ましょう。ソ連崩壊を予測したフランスの歴史人口学者、エマニュエル氏(以後、E 氏という)は先進国のデータから「軽度だった国」と「重度だった国」について文化人類学的に説明可能と言います(難しい言葉でありません)。

軽度の国は、日本、韓国、台湾、シンガポールなどで 10 万人当たりの死者数は 1 人以下です。一方、

重度だった国で最も悲惨な数字は 10 万人当たりの死者数は 80 人を超えるベルギーです。50 人台はスペイン、英国、イタリア。フランスは 40 人、アメリカは 30 人で同じ先進国のカテゴリーなのにその数字の違いに驚かされます。

E 氏は 重度だった国の特徴について「個人主義とリベラル(自由)な文化的伝統」がある国だそうです。一方、権威主義、規律重視の伝統がある国は 感染がある程度抑えられ、死者数も少ない結果となりました。個人の考えや行動の自由に寛容な国に感染が拡大したのは皮肉なものです。

とは言え・・・コロナ後には某国のような監視社会が広まる危険性が指摘されています。「国が人を管理」しようとする権威主義と「自分たちでルールを守ろうとする」規律重視はまったく異なります。

他国のように都市を強制的にロックダウンしなかったにも関わらず個々人の自粛行動で感染を最小限にとどめた私たち日本人を誇りに思います。

1分でわかる業務カイゼン

自由VS協調

日本人は個性がないとか・・・自己主張をしないとかよく外国から批判されます。しかし、先ほど紹介したようにコロナ騒動では「自由を最優先する国」と「人との協調を最優先する国」という国民性により感染数、死者数に差が生じたようです。



さて、学生が社会に出たとき一番戸惑うのは・・・学生時代には「自発的で自由な発言」が求められます。一方、社会人になった瞬間「協調性」を最優先に求

められます。それらを矛盾と戸惑いつつ人は立派な社会人に成長していきます。しかし、これは相反する要求ではありません。「自由な発言」は人を陰から支える「協調的な行動」をし続けるという最低限のルールを守っている人が許されるものです。協調もない勝手気ままな人が同じ発言しても自分勝手とされます。

かつて・・・実力のある選手ばかりをあつめ金満球団と言われたプロ野球チームがありました。優勝する事が出来ませんでした。つまり、エースや 4 番のような優秀な人だけではなく、元選手であったスコアラ

ーが情報を収集、練習後の用具整備、食事を用意する人など多くの支えがあってチーム(会社)が勝ち続ける事が出来るのです。自己主張が強く、自分勝手な人ばかりだとチームがまとまりません。

「自由を求め」テレワーク？

コロナ後にはテレワークが広まりそうです。ある雑誌の調査によるとコロナが収束しても引き続きテレワーク中心に働きたいと考えるビジネスパーソンが4割に達するそうです。別の雑誌の調査ではテレワークによりOL40%の人が「体調が良くなった」と回答したようです。原因はストレスがなく働く事が出来たからだそうです。

それはそうでしょう～ね。在宅勤務で給料をほぼ満額支給されますので…まあ～気持ちはわかりますが…経営の立場になったらどうでしょうか。

当事務所のお客様も数日から数か月営業を休んだ会社が多数あります。しかし、経営者に共通する認識は「会社のためになる人材とそうでない人材を見極める」です。以前のような景気に戻るまで相当な期間がかかると予想され、大企業のみならず中小企

業でもリストラが進むかも知れません。コロナ前の猫の手も借りたい状況の中、自由気ままにふるまっていた社員さんには大変な時代となりそうです。

規律重視の会社がコロナ後、飛躍する

会社にはルールがあります。たとえば上下関係や役割分担。先ほども触れましたが…エースが自由気ままにふるまっていたら「会社のためになる人材」とは言えません。一方、仕事が遅くて、迷惑ばかりかける人が「ためにならない人材」とは限りません。そのような不器用な人は毎日一歩ずつ仕事を覚えてゆけば良いのです。

経営者として今すべきことは社員が納得出来る形で「規律重視の会社」を作り上げる事です。目先の業績に囚われず、人材を成長させる努力を続け、従業員も経営者も同じ目標を理解し、そのためのルール



を守っていける会社がアフターコロナ時代に飛躍します。

不謹慎かも知れませんが…先を見ている経営者はコロナ後(焼け野原?)を見据え、虎視眈々とチャンスを狙っています。

今月のことば

烏合の衆

カラスの群れがてんでに集まったり散ったりすることから、規律も統制もないものたちが寄り集まった群集のことをいう。

故事・ことわざ

編集後記:

私事ですが…コロナデブとなりました。生命線のスポーツジムがクラスターの発生源となるとの非難を浴び閉鎖された影響です。とは言え…太った原因は意思の弱さによる過剰なカロリー摂取です。50 過ぎのおじさんでさえ自己管理出来ないのに、子供や若者に遊ぶ自由、さぼる自由という甘いエサがある中で自分を律しなさいと言うのには無理があります。そう考えると…アフターコロナ最大の問題は子供にとっては勉強意欲、大人にとっては勤労意欲の回復かも知れません。

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合 (TKCが証明するデータを使用しています)

最近1年間 : 71.4%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は34.2% (29年4月~30年3月) です)

